

道の駅「奥入瀬ろまんパーク」に キャンプ場を開設しては

他の事例等から 必要性を検討したい



堰野端 展 雄
(自民公明クラブ)

議員 道の駅「奥入瀬ろまんパーク」の野外ステージを中心とした広大な東側エリアの利活用促進のために、

議員 キャンプ場を開設する考えは。

農林商工部長 観光客や市民の憩いの場として親しまれてきた広場としての利用ニーズと、

キャンプ場としての利用ニーズ、さらに夜間における施設管理の方法などを調査、検討し、慎重に判断する必要があると考えています。今後、他の道の駅の事例なども研究し、開設の必要性を検討していきたいと考えています。



ろまんパーク東側エリアの利活用促進を

議員 このエリアにドッグランを開設する考えは。

農林商工部長 維持管理上の課題や周辺環境への影響、親水公園を利用する子供の安全性の確保など、さまざまな面から検討が必要と

考えます。道の駅以外の公共施設に自治体が開設した県内の事例や道の駅に併設している県外の事例を参考に、課題の検討とあわせて調査研究していきたいと考えています。

議員 市で義務教育期間中に、ピロリ菌の検査・除菌を実施する考えは。

健康福祉部長 感染して早い時期の中高生への除菌治療は胃がんの予防効果があると考えられる一方、除菌薬の副作用の懸念が残されています。県内では、1市が平成29年度から検査を希望する中学2年生を対象に実施している状況です。当市では、国から明確な方向性が示されていますので、今後調査研究していきたいと考えています。



戸 来 伝
(市民連合クラブ)

議員 ドローン（無人の小型航空機）は、

測量、災害救助、物資の輸送、建物や橋等のインフラ点検、農業の生育調査、薬剤散布等、大きな可能性がある。だが法律の規制が多く、活用にはプロが求められている。当市にはドローンの第一人者がいるが、なりわいとするのは厳しい状況だ。市はドローンの存在をどう見ているのか。

総務部長 既に総合防災訓練で活用し、大きな可能性を感じているので、関係団体等と災害時応援協定を締結したいと考えています。それ以外でも職員による現地確認が難しい場

ドローンの存在を市では
どう見るか
大きな可能性があり
活用していきたい

所等での使用が想定されます。今後、適宜活用を判断していきます。

議員 ドローンに携わる技術者たちをどう支援していくのか。

総務部長 いまは支援の必要性を判断できませんので、技術開発や法規制等、取り巻く環境の動向を注視し、時期を見て考えたいと思います。

議員 にんにく生産量強化対策事業の成果は。

農林商工部長 平成25年度から3年間、JAによる増殖用の優良種子の購入を補助しました。この増殖により、農家は優良種子を安価に購入することができるようになりました。

議員 優良雌牛県外導入事業の状況は。

市長 評価の高い鳥取県の種雄牛「白鵬85の3」の子を、平成30年度から3年間で120頭導入するため、助成しています。導入した子牛をもとに肉用牛の経営基盤を強化してほしいと考えています。



行政全体でドローン活用の検討を